

39 大切な人を救いたい…応急手当の実習 ②止血法

災害時や日常生活においてケガをしてしまった場合に備えて、私たちができる応急手当について学びます。



止血法による応急手当の方法について実習します。

高/中学
小学校高学年・中学生以上

実技

屋内

40分

時間軸

実施内容

対象人数★5～40人（1グループ5～6人）

1 導入（5分）

災害時ばかりでなく日常生活でも、応急手当の方法を身につけておけば、いざというときに役立つことを話します。知識だけではなく、実際にからだを動かしてやってみることが重要です。

2 止血法の実習（35分）

→資料39-1

消防職員・消防団員や応急手当指導員・普及員の資格を持っている方とともに進めていくものとします。必要に応じて資料39-1を参考にしてください。

「止血法」について▶

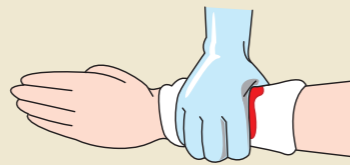
切り傷などの出血を止めるための応急手当として、傷口を直接手で押さえて止血する「直接圧迫止血法」について実習します。



正しい止血法を習得しましょう

出血のときの止血

出血の手当ては、①出血を止める（止血）、②細菌の侵入を防ぐ、という2つのことを意識しながら行いましょう。



傷口を直接手で押さえて血を止めます（直接圧迫止血法）



応急手当

- ①出血しているところを完全におおえる大きさの清潔なガーゼや布でやや強く押さえ、止血する。
- ②患部を清潔に保ち、包帯などを巻く。
- ③じかに血液にふれないように、ビニール・ゴム手袋を利用する（スーパーのレジ袋などでもよい）。

●● 指導ポイント

止血法は、①出血を止める、②細菌の侵入を防ぐ、という2つの視点から行うことが重要です。

●● 自主防災組織の関わり方

応急手当指導員・普及員の資格を持っている方は、指導をお願いします。

●● 準備するもの（目安）

準備品	数	備考
<input type="checkbox"/> 資料「応急手当 [ケガの応急手当]」	人数分	資料39-1（配付用）
<input type="checkbox"/> ガーゼ、タオル	必要数	
<input type="checkbox"/> ビニール手袋、ビニール袋	必要数	

●● 家庭への持ち帰り

応急手当について学習した子どもには、家に帰ったら保護者にもぜひ学んだことを話してほしいと指導してください。

●● このメニューに関する+αの知識

- ①今回の応急手当はケガを治療する行為ではなく、ケガ人を医師等に引き渡すまでの間に苦痛を軽減し、症状を悪化させないための一時的なものです。医師など専門家による治療が必要だということを認識してください。
- ②応急手当の実習をしても、しばらく時間がたつとその方法を忘れてしまうものです。実習は一回受けたら終わりというだけでなく、定期的を実施することがのぞまれます。なお、病院や消防本部・消防署の多くでは、応急手当についての講習会を開催していますので相談してみてください。

●● ひと工夫

家庭で備えておく救急箱の中身についても、この際に考えておくとういでしょう。